

遷るメタファー：アート実践によるゲニウス・ロキの探求

SCHELLENBAUM, Zoé Sélane

1318905

論文要旨

この論文の目的は、ニューカレドニア、フランス、日本の間のゲニウス・ロキの現象を研究することを通して、人間と場所の詩的な関係を探ることである。それをアートと人類学を横断する映像人類学的アプローチによって、探求する。

ラテン語で「場の精」を意味するゲニウス・ロキは、もともと古代ローマ人が特別な土地に祀った神や守護霊の存在を意味していた。

時が経つにつれ、この言葉は新たな定義を得つつ、ゲニウス・ロキに新たな特性を与えるようになった。それは、建築物に影響を与える雰囲気¹、神話やアーティファクト、特異な儀式の創生を活性化させる力の流れ、ある場所で起きた複数の歴史的な出来事の結合、能動的な記憶²、幽霊³…こういったものを指すようになった。作家のアンソニー・ポワロドーは、我々は「場所のイメージの中に立っていると信じているとき」に、ゲニウス・ロキを感じるという。特別な場所に向き合うことで、その場所は、アートが我々に予見させるイメージを、そして我々が記憶に留めていたであろうイメージを、突如呼び起こすかもしれないのである⁴。

目に見えず、無形で、変幻自在なゲニウス・ロキの存在は、具体性と仮想性の中で絶えず揺れ動いているようである。第1章で筆者は、マヤ・デレン、リジア・クラーク、アレハンドロ・ホドロフスキーの魔法のような美術的実験を通して、この遷る現象のメタファー的な次元を探ることを意図する。

ゲニウス・ロキを単一の表現方法に還元することが不可能であると同様に、地理的・文化的に単一のアイデンティティを付与することもできない。

人類学者アナ・ツインのセレンディピティ的なアプローチ⁵に影響を受け、またニューカレドニアの鉱山でカナックの人々、フランス人入植者、日本人移民を結びつけたニッケル採掘の歴史⁶を再発見したことで、筆者は2016年から出生地のニューカレドニア、出身地のフランス、そして現在居住している日本の間で、本研究を展開している。

マリリン・ストラザーンやジェームス・フォックスなどのオセアニアに関する人類学者は、「topogeny」⁷や「metaphor」⁸といった用語を導入しており、それらに影響を受けた筆者は、第2章で、メラネシアにおける空間性の概念を通じて、ゲニウス・ロキを研究する計画である。

¹ Norberg-Schulz, C., 1981. *Genius loci: paysage, ambiance, architecture*. Mardaga, Bruxelles.

² Yates, F.A., 1994. *L'art de la mémoire*. Bibliothèque des histoires, Gallimard, Paris.

³ Sauget S., 2020. « Hantés et enchantés. À propos de : Caroline Callard, *Le Temps des fantômes. Spectralités de l'âge moderne (XVIe-XVIIe siècle)*, Fayard ». <https://laviedesidees.fr/Caroline-Callard-Temps-des-fantomes-Spectralites-age-moderne.html> (web article, last connexion : April 25th, 2021).

⁴ Poiraudau, A. « Un extrait de *Approches du génie du lieu* : "Le génie du lieu comme fable de l'entrée dans l'image" ». August 16th, 2008. <http://futilesetgraves.blogspot.com/2008/08/un-extrait-de-approches-du-gnie-du-lieu.html> (web article, last connexion : April 25th, 2021).

⁵ アナ・チン『マツタケ——不確かな時代を生きる術』みすず書房、赤嶺淳 訳、2019年（仏語版：Tsing, A., *Le champignon de la fin du monde, sur la possibilité de vivre sur les ruines du capitalisme*, éditions La Découverte, Paris, 2017）

⁶ Tsuda, M., 2012. *Âmes errantes: le destin brisé des émigrants d'Okinawa en Nouvelle-Calédonie*. Madrépores, Nouméa.

⁷ Fox, J.J., 1997. *Poetic power of place: comparative perspectives on Austronesian ideas of locality*. Australian National University, Australian National University (Eds.)

⁸ Strathern, M., 2004. *Partial connections*. AltaMira Press, Walnut Creek Lanham New York Toronto Oxford.

ニューカレドニアでは、場所の記憶とそこに住むカナックの人々のアイデンティティが密接に関連している。彼らが住む土地の名称、口承の神話、先祖らの住む「見えない世界」との境界について語る夢の物語⁹に、一族（クラン）の血筋の歴史を読むことができる。しかし、植民地化と福音伝道、ニッケルの採掘、大規模開発と気候変動による海面上昇¹⁰を通じて、この詩的でメタファー的な「場所」との関係は、今や様々な問題に直面し、変容している。

上記の研究背景を説明した後、筆者はニューカレドニアのウベア島の住民を対象として行った美術的実験（パフォーマンス、エッセイフィルム、テキスト、翻訳など）とインタビューに基づいて、フィールドワークの経験を説明する。この作業は、研究対象である行為を自ら行うことでその行為の原因を理解することを図るティム・インゴルド¹¹、およびメラネシア人によって行われたメタファーにまつわる慣行の再定式化を目論むマリリン・ストラザーンの意志を継ぐものである。

加えて、メラネシアにおける空間性の概念は、メタファーの観点からゲニウス・ロキの現象を研究することを可能にするだけでなく、映像人類学における実験的な研究方法の創造を促し、アーティストであり研究者であるとは何かという問いも投げかける¹²。

文学理論家のジェラルド・ジュネットの、美術作品の内在性と超越性に関する文献¹³や、前述の人類学者らのアーティファクト（人工物・収藏品）の流動性に関する理論に依拠して、筆者は論文の最終章で、ゲニウス・ロキと美術作品の類似性について考察する。このどちらも、物質性と非物質性の間、現実と仮想の場所の間で、限りないメタファー的な遷り変わりのプロセスの結果である。言い換えれば、どちらも数多くの翻訳の賜物である。

ゲニウス・ロキは決して固定されたものではなく、イメージの流れ、物語の流れ、身振りの流れ、そして時間と空間において美術作品の様相を曖昧にする絶え間ない変化という流れに巻き込まれている。

人がゲニウス・ロキを見て感じることは、その動的な軌跡の中のほんの一瞬に過ぎない。それと同じように、美術作品が美術的実践の過程で形を獲得して具体的になったと思われるまさにその瞬間に、作品はすでにその具体性を失っている。作品を成り立たせる素材や、作品が参照するものと作品が我々に喚起するものの構成は、即座に新しい場所へと無限に展開する。そして、この具体性と仮想性の間に翻訳を引き起こす「媒体」を研究することは、特に興味深い。美術作品の場合、それはアーティスト自身に他ならない。

ゲニウス・ロキをアートの実践を通して研究し、逆にゲニウス・ロキの視点からアートの実践を研究し、また、翻訳する媒体を問うことで、人間が住む場所や創造する場所との関係に新たな光を当てる。そうすることで、アートと人類学の両分野に新たな共通の視点をもたらすことが、本論文の目的である。

⁹ Leblic, I., 2010. *Les Kanak et les rêves ou comment redécouvrir ce que les ancêtres n'ont pas transmis (Nouvelle-Calédonie)*. *Journal de la Société des Océanistes* 105–118. <https://doi.org/10.4000/jso.6146>

¹⁰ Sabinot, C., Boudjema, V., Le Duff, M., Dumas, P., 2018. *Mémoires des sens et des paysages littoraux sur l'île d'Iaai (Ouvéa en Nouvelle-Calédonie)*. *Vertigo*. <https://doi.org/10.4000/vertigo.24988>

¹¹ インゴルド・ティム『メイキング：人類学・考古学・芸術・建築』左右社、金子遊、水野友美子、小林耕二 訳 (Ingold, T., 2017. *Faire, Anthropologie, Archéologie, Art et Architecture*, éditions Dehors, Bellevaux)

¹² Schneider, A. (Ed.), 2017. *Alternative art and anthropology: global encounters*. Bloomsbury Academic, Bloomsbury Publishing, Plc, London ; New York.

¹³ ジェラルド・ジュネット『芸術の作品1 (内在性と超越性)』和泉涼一 訳、水声社、2013年 (仏語版: Genette, G., 2010, *L'oeuvre de l'art*, éditions Seuil, Paris)